

中部様式  
(調査事業)

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

# 北名古屋市地域公共交通会議

令和5年10月16日設置

調査事業 (計画策定) 令和7年3月 地域公共交通計画策定予定

## 調査の背景および必要性

### 【現状と背景】

市内の公共交通は、市内に2駅が立地する名鉄犬山線の鉄道のほか、名鉄西春駅を中心に路線バスの運行、コミュニティバスのきたバス、民間タクシーが中心となっている。

また、本市は、名古屋市の都心部への近接している立地性も相まって人口は2023年1月1日現在で86,271人で増加傾向にある。

### 【課題】

一方、今後は人口の減少と高齢化率の増加が懸念されている。

また、本市の昼夜間人口比率は約90%で市外への通勤・通学者が多く、昼間の子育て世代、高齢者等の移動手段の確保が課題となっている。

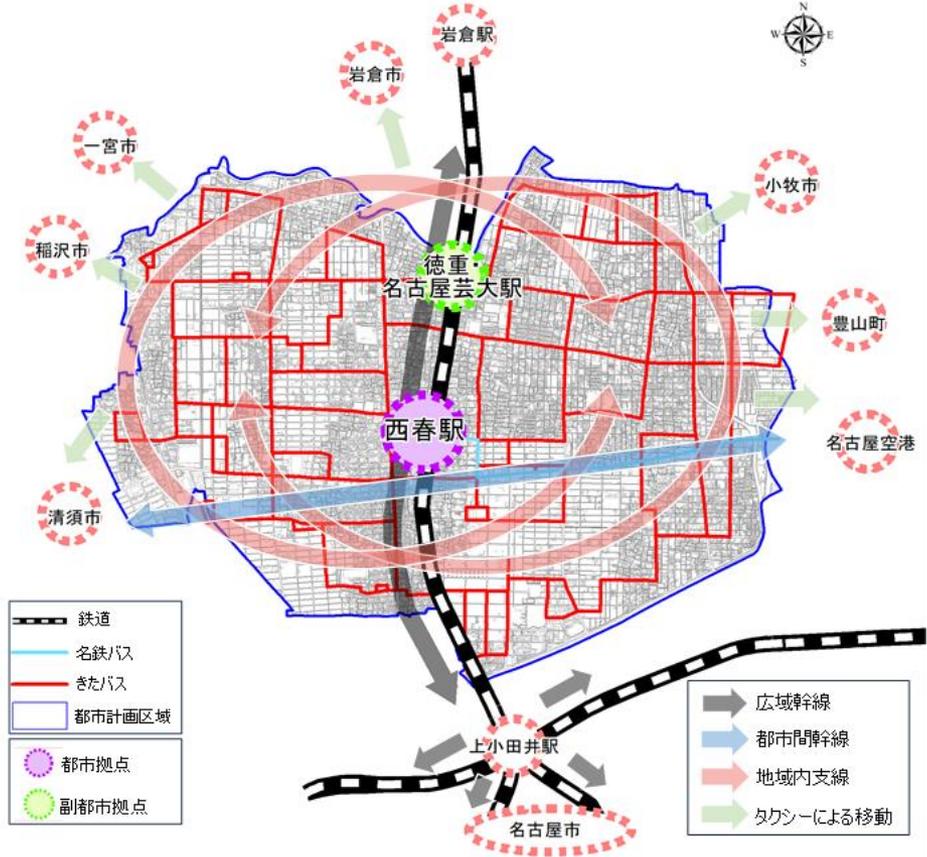
さらに、本市の将来像や公共交通の在り方を踏まえ、計画的に公共交通の確保・維持が求められる。

### 【調査の必要性】

本市では、こうした現状を踏まえ、市内の移動手段の確保、利便性の向上に向け、2023年10月に地域公共交通会議を法定協議会化した。

今後、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、地域公共交通計画の策定を目指す。計画策定に向け、本市の公共交通の現状及び、市民や市内就業者の移動ニーズ（潜在的ニーズも含む）等を把握するため、調査を実施する。

# 公共交通ネットワークイメージ



**高質な都市づくりを支える公共交通ネットワークづくり**

自ら移動する手段を持っていなくても、市内各地域から中心拠点への移動が可能な環境を整備し、日常生活に不安がない公共交通ネットワークの形成を目指す。合わせて、隣接市町の都市拠点や市内外の交通結節点へのネットワークの維持・充実を図ることで、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画で目標に掲げる『集約された都市のなかで、活力ある産業を育むとともに、都市と農地の共存によるゆとりや潤いのある高質な都市づくり』の実現を目指す。

	系統	役割	確保・維持策
広域幹線	名古屋鉄道	記載省略	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準の確保を目指す
都市間幹線	名鉄バス	記載省略	
	きたバス (清須市系統)	記載省略	地域公共交通確保維持事業(幹線補助・フィーダー補助)を活用し、持続可能な運行を目指す
地域内支線	きたバス	記載省略	
	タクシーを含めた新しい公共交通	記載省略	
全線共通	タクシー	記載省略	交通事業者と連携した取組により、持続可能な需要と供給の均衡を目指す

## 実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容	結果概要
<b>自転車駐車場利用状況調査</b> 鉄道2駅周辺の自転車駐車場の利用状況について、朝4時間、夕5時間の入・出場数、属性、台数を調査	徳重・名古屋芸大駅周辺では2地点の朝で収容率が100%を超え、それ以外の収容率は50%未満となっている。 西春駅周辺では収容率、利用率ともに50～80%で収容台数の不足はない。 上小田井駅周辺では収容率が200%を超え、収容台数が超過している。 調査の結果、駅によって通勤・通学の時間帯の利用が高い。
<b>地域公共交通市民アンケート調査</b> 市民が利用する公共交通の実態、利用状況、要望等について紙面とwebで調査	きたバスについて、定期的な利用者は少数で、利用したことが無い市民が多い。しかし、きたバスを廃止するべきという市民は少ない。 きたバス、路線バス、タクシーの公共交通について、充実度は平均より多少、低い結果となっている。
<b>パーソントリップ調査の分析</b> 中京都市圏パーソントリップ調査結果から、市民の移動について分析	自家用車、鉄道では一宮市、小牧市、岩倉市等の近隣市町のほか、名古屋市、豊田市といった大都市への移動が多くみられる。 バス、タクシーになると概ね市内及び名古屋市の一部、刈谷市などに限られている。 バスを利用して鉄道駅まで向かい、鉄道を使って通勤・通学する市民が多いことが想定される。
<b>交通事業者ヒアリング調査</b> 市内公共交通事業者（バス、タクシー、鉄道、自転車駐車場）へ市内の公共交通の現状と課題を聞き取り調査	事業者共有の問題として、運転士不足が挙げられる。他にバス事業者では渋滞による遅延や駅前ロータリーの狭小性、タクシー事業者では台数不足による苦情の増加等があった。 自転車駐車場では、精算時のキャッシュレス対応、電動自転車への対応など、近年の社会情勢の変化が求められている。

## 実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容	結果概要
<b>企業・大学ヒアリング調査</b> 市内の企業及び大学へ市内の公共交通の現状と課題を聞き取り調査	<p>大学では、駅から校舎まで自転車を利用する学生が多くバス等の利用は少ない。ただし、市内に2箇所あるキャンパス間を授業時間に合わせてバスが走っていると良いという意見があった。</p> <p>企業では、自動車での通勤が多く、駅から事務所まで自転車を利用する社員が多い。ただし、悪天候時には公共交通を利用しなくてはならず、日常から公共交通が充実していれば助かるという意見があった。</p>
<b>周辺自治体ヒアリング庁舎</b> 周辺7市町の自治体へ公共交通の現状や今後の方向性、本市との連携等を聞き取り調査	<p>デマンド交通を運行あるいは将来的に導入を検討している自治体が見られた。コミュニティバスを導入している自治体も多いが、あまり利用されておらず、高齢者の無料など利用を促進する施策を検討している自治体が多い。</p> <p>自治体間での公共交通の連携を検討している自治体が多い。既に連携している路線を持つ自治体については、今後も路線を維持していきたいと考えている。</p> <p>いずれの自治体も本市や他の自治体と連携することで、公共交通の利用促進に繋がると考えている。</p>

## 調査結果の地域公共交通計画への反映

### 【北名古屋市公共交通の課題】

#### 課題1：関係者、利用者のニーズに対応した公共交通体系の構築

市民アンケート各ヒアリング等から高齢者の利用ニーズが今後も高くなると想定され、また、交通事業者からは現行の公共交通体系の改善の意見があるほか、企業・大学からは特定の時間帯でバス路線のニーズがある。これらのニーズに対応するため、関係者や利用者等と連携した公共交通体系の構築が必要である。

#### 課題2：持続可能な公共交通の構築

コミュニティバスの収支率は過去5年間で20%を下回り、今後の公共交通維持に向けて財政負担の軽減が必要になる。また、交通事業者のヒアリングから、タクシー・バス事業者は、運転士の高齢化、運転士不足の問題が深刻化している。こうした状況から、財政、人材の観点から、既存の公共交通体系の維持は困難であり、新たな持続可能な公共交通の構築が必要がある。

#### 課題3：拠点形成に寄与する利便性の高い公共交通体系の構築

西春駅、徳重・名古屋芸大駅、上小田井駅周辺へ移動しやすい公共交通網を構築し、これらの地域の拠点形成に寄与する利便性の高い公共交通を構築する必要がある。

## 調査結果の地域公共交通計画への反映

### 【基本方針・目標】（課題を受けた基本方針と目標）

#### 基本方針1：誰もが利用しやすい地域公共交通環境の整備

目標1 / 地域公共交通の利便性向上による利用促進

目標2 / 高齢者等交通弱者に配慮した公共交通の形成

#### 基本方針2：連携・協働による持続可能な地域公共交通の構築

目標3 / 関係者連携による拠点へ移動しやすい新たな公共交通の検討

目標4 / 公共交通維持のための人材の確保手段の検討

### 【事業内容】（案）

1. バス路線・ダイヤの見直し等による運行の適正化（実施主体：市、公共交通事業者、民間企業、市民）
2. 駅周辺の交通環境の改善（実施主体：市、公共交通事業者）
3. 駅周辺自転車駐車場の改善（実施主体：市、公共交通事業者）
4. 利用しやすい公共交通環境への改善（実施主体：市、公共交通事業者）
5. 高齢者等移動困難者への公共交通利用支援（実施主体：市、公共交通事業者）
6. 市民協働による公共交通体系の検討（実施主体：市、公共交通事業者、民間企業、市民）
7. デマンド交通や乗合タクシー等の新たなモビリティサービスと公共交通の検討  
（実施主体：市、公共交通事業者、民間企業、市民）
8. 運転士の確保に向けた取り組みの検討（実施主体：市、公共交通事業者、市民）

## 調査結果の地域公共交通計画への反映

### 【数値目標】（案）

#### 目標①：地域公共交通の利便性向上による利用促進に関する評価指標

数値指標	現況値（R5年）	目標値（R11年）
外出時に公共交通を利用する人の比率（市民アンケート）	53%	58%

#### 目標②：高齢者等交通弱者に配慮した交通環境の形成に関する評価指標

##### <交通弱者への支援>

数値指標	現況値（R5年）	目標値（R11年）
免許返納者の今後の主な交通手段として、公共交通を選択する比率（市民アンケート）	21%	31%

##### <交通事業者への支援>

数値指標	現況値（R2～R6年）	目標値（R7～R11年）
公共交通事業者への支援の実施件数	0回	1件以上

#### 目標③：関係者連携による拠点へ移動しやすい新たな公共交通の検討

数値指標	現況値（R2～R6年）	目標値（R7～R11年）
市民・公共交通事業者共創型ワークショップの開催及び実証実験	0回 実証実験なし	ワークショップ10回以上 実証実験1種以上

#### 目標④：公共交通維持のための人材の確保手段の検討

数値指標	現況値（R2～R6年）	目標値（R7～R11年）
運転士確保関連事業の取組件数	0件	1件以上

### 【調査結果の地域公共交通への反映】

- 本市では、北名古屋市地域公共交通計画の策定において、北名古屋市地域公共交通会議での協議を通じて、上位計画や立地適正化計画等の関連計画との整合を図りつつ、各種調査から抽出された課題を改善し持続可能な公共交通体系を構築するため、市民、交通事業者、近隣自治体等のニーズを踏まえた基本方針と目標及び、取組みとなる事業内容を設定する。さらに、事業の達成状況を評価するため、数値目標を設定する。
- 同計画策定後は、今回の各種調査結果等を踏まえ、公共交通体系を形成する市民、交通事業者等の意向を更に深掘りすることで同計画の更新を目指す。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和6年12月13日

協議会名:北名古屋市地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握・関連計画の整理</li> <li>・公共交通に関する実態ニーズ調査</li> <li>・地域公共交通計画(案)のとりまとめ</li> <li>・協議会開催</li> </ul> <p>【結果概要】</p> <p>令和7年3月31日完了予定のため、結果未達</p>	<p>北名古屋市地域公共交通会議では、各専門部会(バス・タクシー・ケッタ)で事業者と行政が調整・検討し、地域公共交通会議の場においては、事業者と行政が共同提案という方式で、市民委員に提示する方式で会議を実施する。</p> <p>(現在までの進捗)</p> <p>R6.5.10 第1回計画策定業務提案審査部会／プロポーザル実施 R6.5.10 第1回地域公共交通会議／受注者決定・タイムスケジュール調整 R6.5.20 第1回ケッタ部会／自転車駐車場利用調査内容説明・日時調整 R6.7.2 第2回北名古屋市地域公共交通会議／計画期間中の公共交通の方向性を検討(事業者が市民のニーズを直接キャッチできる環境を整えた、需要と供給のバランスが取れた共創型交通社会の実現を目指す) R6.7.9 自転車駐車場利用調査実施 R6.7.31～事業者ヒアリング実施(タクシー・バス・自転車駐車場運営企業等) R6.8.1～隣接自治体ヒアリング(一宮・稲沢・清須・名古屋・豊山・小牧・岩倉) R6.9.2 第1回バス部会／ヒアリング結果に基づく課題の抽出 R6.9.27 第1回タクシー部会開催／ヒアリング結果に基づく課題の抽出 R6.10.10 第3回北名古屋市地域公共交通会議／事業者ヒアリングの結果に基づく課題の提示・検討 R6.11.8 第2回タクシー部会／計画素案の提示・パブコメ日程の調整 R6.11.11 第2回バス部会／計画素案の提示・パブコメ日程の調整 R6.12.13 第4回北名古屋市地域公共交通会議／計画素案の提示・パブコメ日程を決定</p> <p>(今後の予定)</p> <p>R6.12.26～R7.1.25 パブリックコメント実施 R7.1.27 第4回ケッタ部会／地域公共交通計画案を提示(第2・3回は計画に関する審議なし) R7.1.28 第3回バス部会／パブリックコメントの結果を踏まえた計画案を提示 R7.1.29 第3回タクシー部会／パブリックコメントの結果を踏まえた計画案を提示 R7.3.4 第5回北名古屋市地域公共交通会議／パブリックコメントの結果を反映させた計画案を提示・最終調整</p> <p>現在まで事業は適切に実施されている。 今後も、上記予定のとおり進捗し、予定日までに問題なく事業が完了する見込みである。</p>	<p>【補助申請を行う補助対象事業名】</p> <p>北名古屋市地域公共交通計画策定支援業務</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握・関連計画の整理</li> <li>・公共交通に関する実態ニーズ調査</li> <li>・地域公共交通計画(案)のとりまとめ</li> <li>・協議会開催</li> </ul> <p>【実施時期等】</p> <p>着手予定日 交付決定日(令和6年4月25日) 完了予定日 令和7年3月31日</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月13日

協議会名:	北名古屋市地域公共交通会議
-------	---------------

評価対象事業名:	調査事業(計画策定)
----------	------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p><b>【地域の交通の目指す姿】</b> 持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、上位計画や立地適正化計画等の関連計画との整合を図りつつ、地域公共交通計画を策定する。 (事業実施の目的・必要性) 計画策定のためには、北名古屋市における公共交通の現状を把握するとともに、市民や市内就業者の移動ニーズ(潜在的なニーズも含む)についても調査することが必要である。</p>
-----------------------------	---